

第2章 基本政策② 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】

第2節 学校教育

施策3 教育環境の整備・充実

基本計画
掲載頁

78～81

施策の 達成状況	A	A：順調に推移した B：おおむね順調に推移した C：進捗が遅れた	成果	老朽化した学校施設の改修工事等を計画的に実施した。 また、文部科学省が示す教育ネットワーク方針に対応し、新システムを構築したことにより、教職員・保護者双方の負担を軽減することができた。 学校運営協議会においては、保護者・地域住民に学校教育に対する評価・助言をいただき、学校・家庭・地域の連携による教育力向上に寄与した。
			課題	新教育システム運用について、負担軽減の効果はあるが、教職員及び保護者が適応していくのに時間がかかることが課題である。 また、児童生徒一人1台の端末使用が早期に定着したことで、端末の故障による修理件数の増加や情報モラルについての問題が増加しつつあるため、引き続き対応が必要である。 通学路に配置する交通指導員については、安定した人材確保が喫緊の課題である。
今後の 方向性	II	I：現状のまま継続 II：一部見直し等の余地がある III：抜本的な見直し等が必要	成果・課題を踏まえた今後の取組方針	新教育システムの運用について、教職員及び保護者が早期に適応できるよう、相談対応等柔軟に実施していく必要がある。 また、交通指導員の人材確保について、日々の通学における児童生徒の安全確保のため早急に対応を検討する。 新たに実施する利子補給制度については、支援を必要とする生徒に周知等を行い、的確に運用していく。

【参考】施策領域ごとのKPI※1（重要業績評価指標）

項目	現状値 (策定時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	令和5年度時点 達成度※2	所管課
主体的・対話的で深い学びの実施	小5 4.0p、小6 4.0p 中1 4.0p、中2 3.8p 中3 3.8p	小5 3.8p、小6 3.8p 中1 4.0p、中2 3.8p 中3 3.8					平均4.1pまで上げる	B	教育支援課
県学力・学習状況調査における、学力レベルを伸ばした児童生徒の割合と学力の伸び率	《小学校》 5年 76.1 2.6 6年 74.8 2.2 《中学校》 1年 70.6 2.0 2年 57.0 1.0 3年 67.6 2.0	《小学校》 5年 59.9 1.2 6年 76.8 2.4 《中学校》 1年 63.7 1.5 2年 49.5 0.6 3年 50.9 0.5					《小学校》 平均80%の児童を伸ばしかつ学力レベルを平均2.6に上げる 《中学校》 平均70%の生徒を伸ばしかつ学力レベルを平均2.0に上げる	C	教育支援課
不登校の割合	小学校 1.19% 中学校 4.98%	小学校 2.19% 中学校 5.75%					小学校 1%未満 中学校 4%未満	C	教育相談センター
規則正しく健康的な生活を送っている児童生徒の割合：朝食を食べる（全国学調）	小学校 88.5% 中学校 79.7%	小学校 93.1% 中学校 90.6%					小学校、中学校 90%	A	教育支援課
運動やスポーツが好きだと答えた児童生徒の割合（全国運動能力・運動習慣等調査）	《小学校5年》 男子89.0% 女子80.1% 《中学校2年》 男子83.8% 女子77.0%	《小学校5年》 男子88.9% 女子79.9% 《中学校2年》 男子86.8% 女子71.9%					全国平均を上回る ※参考令和3年全国平均 《小5》男子 91.0% 女子83.7% 《中2》男子87.5% 女子75.5%	B	教育支援課
新体力テスト 絶対評価上位3ランクの児童の割合	小学校 77.4% 中学校 82.4%	小学校 77.1% 中学校 80.7%					小学校 80% 中学校 85%	B	教育支援課
老朽化対策を実施した校舎数	0校	0校					4校	B	教育総務課

※1 KPIは「施策」ではなく「施策領域」ごとに設定しているものです。

※2 【達成状況評価について】 A：目標を上回るベースの指標値 B：目標値を達成するベースの指標値 C：やや遅れ気味

主な施策展開の進捗状況

(1) 教育施設・制度の充実	施策の進捗状況	評価の説明	所管部	所管課
○ 老朽化した学校施設について、長寿命化や大規模改修を進めるとともに、バリアフリー化及び脱炭素化の視点を重視しながら、引き続き計画的な改修を進め、課題解決に向けて取り組みます。	A（順調）	学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な改修に向けた設計及び工事を行った。また、改修計画の中で、バリアフリー化及び脱炭素化の視点を重視し、設計内容に反映させている。	教育総務部	教育総務課
○ 児童生徒の情報化社会への適応力を培い、学力向上を図るため、GIGAスクール構想により整備した端末一人1台環境を継続して発展させ、個別最適な学びを実現します。	B（おおむね順調）	一人1台端末の使用が日常となり、Googleアプリやロイロノート・スクールの活用により個別最適な学びの実現に向けての授業改善が進んでいる。児童生徒の端末操作スキルは順調に伸び、情報活用能力や情報モラルの育成にも日々取り組んでいる。	学校教育部	教育支援課
○ 教育ネットワークを時代に適合したセキュアな方式に改め、ハード・ソフト両面から授業・校務におけるICT環境を充実させることにより、学校教職員の働き方改革の一助とするとともに、教育の更なる情報化を推進します。	B（おおむね順調）	新しいシステムへの適応に時間がかかる部分があるが、校務パソコンがフルクラウド・ロケーションフリーで使用できることにより、校務の効率的な実施とデジタル化が進んでいる。	学校教育部	教育支援課
○ 児童生徒が自然に触れ、豊かな人間性を育むための場所づくりとして、自然環境の保全・整備等に努めます。	A（順調）	全ての市立小中学校に学校農園を設置し、農業体験を通して豊かな心を育成することができている。また、4つの市立小学校では学校教育林を活用した生活科や理科等の授業を行うなどの体験的な活動も充実させている。農業支援員や地域の方々の協力の基、安全・安心な場所づくりに努めているので、これからも継続していく。	学校教育部	教育支援課
(2) 地域と共にある学校づくりの整備・充実	施策の進捗状況	評価の説明	所管部	所管課
○ 地域における学習機会の充実や施設の有効活用を図るため、学校施設を開放します。	B（おおむね順調）	合唱や太鼓等の活動をしている6団体に年間を通じて多目的室や視聴覚室等を開放し、文化、スポーツ、レクリエーションの振興及び児童等の健全育成を図った。	教育総務部	教育総務課
○ 保護者や地域住民などで構成する学校運営協議会の充実を図り、学校と地域の連携・協働を進めます。また、学校評価制度を活用し、見直しを図りながら学校・家庭・地域が一体となって学校の教育力を高めていきます。	A（順調）	学校評価について項目数を厳選し、学校運営協議委員の皆様や保護者の皆様からもそれに基づいた助言・評価をいただいている。各校の課題を明確にし、重点的に改善していくための評価システムは学校・地域・家庭をつなぎ、教育力向上につながっているため、今後も評価項目数や内容について適宜見直しを図りながら継続していく。	学校教育部	教育支援課
○ 様々な面における専門知識や技術を伝えることのできる地域の人材、ボランティア等を確保し、児童生徒が多様な経験ができる機会の提供に努めます。	B（おおむね順調）	小学校の生活科や総合的な学習の時間、中学校の職業体験等、地域や関係機関との連携を活用した授業が実施されている。学校応援団やボランティア等、授業支援を始めとする様々な教育活動や環境整備に取り組んでいる。	学校教育部	教育支援課
○ 通学路で、危険と思われる箇所に交通指導員等を配置し、児童の登下校時の安全確保に努めます。	B（おおむね順調）	通学路の交差点等58か所に、交通指導員等を配置した。交通指導員等が退職した場合、人員配置するよう業務委託しているが、人材不足のため、速やかに人員配置できるか懸念している。今後の検討課題である。	学校教育部	教育支援課
(3) 就学・進学への支援	施策の進捗状況	評価の説明	所管部	所管課
○ 経済的理由などにより就学・進学が困難な家庭に対し、就学援助制度の周知を図り、就学に伴う費用の援助や入学準備金及び奨学金の無利子貸付などの支援を実施します。	B（おおむね順調）	経済的理由によって就学困難と認められる児童・生徒の保護者に対し、必要な援助や貸付を行った。就学援助については、認定率10%超であり、今後も事業の継続が必要である。入学準備金・奨学金の無利子貸付制度については、国等の制度の拡充による利用者数の減少等により、制度を廃止し、今後は利子補給金交付制度を新たに実施する。	学校教育部	学務課
(4) 学区の弾力的運用	施策の進捗状況	評価の説明	所管部	所管課
○ 今後の児童生徒数の推移を考慮しながら、学区の見直しを検討します。	B（おおむね順調）	直近の児童・生徒推計に基づき、市内の小・中学校の通学区の適正化を図るため、新座市立学校通学区区域審議会に付託し、調査審議を行っている。令和5年8月30日に通学区区域審議会を開催した。	学校教育部	学務課